

PAT-NO: JP405280125A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 05280125 A  
TITLE: PARTITION WALL HAVING STORING SECTION  
PUBN-DATE: October 26, 1993

INVENTOR-INFORMATION:  
NAME  
ENDO, TOSHIYOSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:  
NAME COUNTRY  
SEKISUI CHEM CO LTD N/A

APPL-NO: JP04080879  
APPL-DATE: April 2, 1992

INT-CL (IPC): E04B002/74, E04F019/08

US-CL-CURRENT: 52/36.4

ABSTRACT:

PURPOSE: To enable the storing smoothly by having a storing section drawable from the end of a wall, and providing a sliding mechanism to the string section.

CONSTITUTION: A partition wall 2 is constituted of a wall body 4 having an open end hollow and a storage 5 drawable the open end fitted in the hollow of the wall body 4. The storage 5 is smoothly fitted into the wall body 4 through a slide rail machanism 15 constituted of a mounted on the wall body 4 side and the rail on the storage 5 side. Accordingly, a dead space in the partition wall can be used completely as the storing section.

COPYRIGHT: (C) 1993, JPO&Japio

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-280125

(43)公開日 平成5年(1993)10月26日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

E 0 4 B 2/74

E 0 4 F 19/08

識別記号

5 4 1 C 6951-2E

1 0 2 L 9025-2E

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 2(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平4-80879

(22)出願日 平成4年(1992)4月2日

(71)出願人 000002174

積水化学工業株式会社

大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72)発明者 遠藤 利喜

茨城県つくば市松代1-22-1

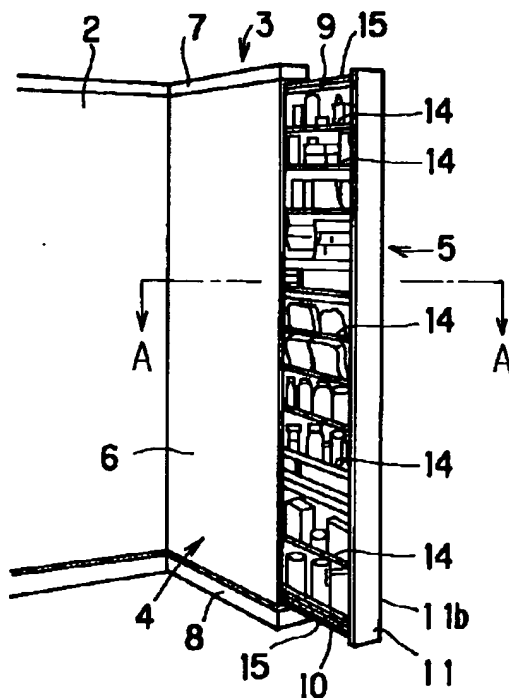
(54)【発明の名称】 収納部を有する間仕切壁

(57)【要約】

従来の間仕切壁の外観及び機能を損なわずに、壁内のデッドスペースのほぼ全域を収納空間として活用する。

【目的】

【構成】 開示される間仕切壁3は、壁内に収納部5を有し、この収納部5は壁の端面から出し入れできるようになっている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 壁の端面からの出し入れが自在である収納部を壁内に備えてなることを特徴とする間仕切壁。

【請求項2】 前記収納部は、スライディング機構を介して、前記壁内に嵌め込まれていることを特徴とする請求項1記載の間仕切壁。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、建物の内部空間をいくつかに仕切るための間仕切壁に係り、詳しくは、壁内に収納部を有する間仕切壁に関する。

## 【0002】

【従来の技術】建物の内部の部屋やコーナーは、視線を遮り独立性を保つために、間仕切壁によって仕切られている。この間仕切壁は一定の厚みを有するが、内部は空洞である。この空洞（デッドスペース）を収納庫として利用できれば、部屋の片付けには役立つし、建物内部の生活空間・作業空間も広がるので、大変好ましい。

【0003】かかる観点から、従来、実開平2-145133号公報に壁埋込み型収納ボックス、実開昭63-61934号公報に荷物を収納するワゴンを嵌込み設置する壁の収納構造が提案されている。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、実開平2-145133号公報記載の壁埋込み型収納ボックスは、開閉自在の蓋（出し入れ口）が壁面に設けられているため、その壁面に化粧合板や化粧クロス等を張る内装工事が一段と複雑になるという欠点があった。また、この構造の収納ボックスは、大きくすれば、それだけ開閉蓋も大きくなるため、壁面に額縁やカレンダ等を掛けることや、壁面に沿ってキャビネットを置くことが困難になるという不都合もあった。このため、デッドスペースの全部を活用することはできないという難点があった。

【0005】実開昭63-61934号公報記載のものは、壁の両側に出入り自在のワゴンが嵌込み設置されるものであるため、室内にワゴンを必要としない建物においては、採用することができない。

【0006】この発明は、上述の事情に鑑みてなされたもので、従来の間仕切壁の外観及び機能を損なわずに、収納空間として、デッドスペースのほぼ全域を活用できる間仕切壁を提供することを目的としている。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために、請求項1記載の間仕切壁は、壁の端面からの出し入れが自在である収納部を壁内に備えてなることを特徴としている。

【0008】また、請求項2記載の間仕切壁は、収納部を、スライディング機構を介して、上記壁内に嵌め込むようにしたことを特徴としている。

## 【0009】

【作用】収納部を壁の端面から出し入れができるので、間仕切壁内のデッドスペースをほとんど完全に収納部として利用することができる。したがって、従来の壁内収納庫に較べて格段と大きな壁内収納庫を実現することができる。また、同様の理由により、従来の間仕切壁の外観及び機能をそのまま維持することができる。

## 【0010】

【実施例】以下、図面を参照してこの発明の実施について説明する。図1は、この発明の一実施例である間仕切壁の構成を示す斜視図、図2は図1に示すA-A線から見た断面図である。これらの図において、符号1、1は建物の柱、2は通常の間仕切壁あるいは構造壁であり、3はこの例の間仕切壁である。この例の間仕切壁3は、開端空洞を有する壁本体4と、該壁本体4の空洞に嵌め込まれ、開端からの出し入れが自在である収納庫5とから概略構成されている。

【0011】まず、壁本体4について説明する。上記壁本体4は、所定の距離を隔てて対置立設される2枚の壁パネル6、6と、これらの壁パネル6、6を支持固定する上部枠材7、下部枠材8とからなっている。

【0012】上記壁パネル6、6は、不燃性の石膏ボードとポリエステル等からなる表面合板と化粧クロスとを順次張り合わせてなるもので、構成部材の内、石膏ボードは裏打ち材として、表面合板及び化粧クロスは表面仕上げ材として用いられる。

【0013】上部枠材7は、壁パネル6、6の最上部に取り付けられ、空洞の蓋体をなすと共に、壁パネル6、6と天井とを見切るための回り縁をも兼ねるように形成されている。下部枠材8は、壁パネル6、6の最下部に取り付けられ、空洞の底体をなすと共に、壁と床とを見切る幅木をも兼ねるように形成されている。

【0014】次に、上記収納庫5は、いくつもの棚を有する本箱型の収納庫であり、天井側枠材9、床側枠材10、前側垂直枠材11、後側垂直枠材12、背面パネル13、及び複数の棚板14、14、…から構成されている。上記前側垂直枠材11は、壁本体4の前側垂直枠材をも兼ねるように、裏打ち材11aと表面化粧材11bとを積層することによって形成されている。上記棚板14、14、…の板幅は壁の厚みに応じて設定され、常識的には、5cm〜30cmの範囲であるが、この範囲に限定するものではない。なお、壁本体4の後側垂直枠材は、必要に応じて設けても良いが、図1に示すように、この例の間仕切壁3を建物の柱1、1や他の壁2に結合する場合には、不要である。

【0015】上記収納庫5は、スライドレール機構15、15を介して壁本体4に嵌め込まれている。このスライドレール機構15、15は、図3に拡大して模式的に示すように、壁本体4の側に取り付けられる車輪16a、16a、16b、16bと、収納庫5の側に取り付けられるレール17a、17a、17b、17b、補助車輪

3

18a, 18bとからなっている。

【0016】上記レール17a, 17aは、天井側枠体9の上面に、その長手方向に沿って互いに平行に、敷設されている。上記車輪16a, 16aは、上記レール17a, 17a上を相対的に走るように、上部枠材7の収納庫出入り口付近に設けられている。なお、実際には、車輪16a, 16aは回転するだけで、動くのはレール17a, 17aである。また、上記レール17b, 17bは、床側枠体10の下面に、その長手方向に沿って互いに平行に、敷設されている。上記車輪16b, 16bは、上記レール17b, 17b上を相対的に走るように、下部枠材8の収納庫出入り口付近に設けられている。なお、実際には、車輪16b, 16bは回転するだけで、動くのはレール17b, 17bである。また、上記補助車輪18aは天井側枠体9に、補助車輪18bは床側枠体10に、それぞれ後側垂直枠体12に近い側に設けられている。

【0017】上記構成において、前側垂直枠体11を手前に引けば、スライドレール機構15の作用により、収納庫5が円滑に引き出される。収納庫5のそれぞれの棚板14, 14, ……に、例えば、書籍（文庫本）、化粧品類、紙類等の被収納物を載せた後、前側垂直枠体11を壁本体側に押せば、スライドレール機構15の作用により、収納庫5が円滑に壁本体内部に戻る。収納庫5が壁本体内部に納まれば、従来の間仕切壁の外観と全く同一である。

【0018】上記構成によれば、間仕切壁内のデッドスペースのほとんど全部を収納庫として利用することができるので、従来の壁内収納庫に較べて格段と大きな壁内収納庫を実現することができる。

【0019】以上、この発明の実施例を図面により詳述してきたが、具体的な構成はこの実施例に限られるものではなく、この発明の要旨を逸脱しない範囲における設計の変更等があってもこの発明に含まれる。例えば、実施例では、レールと車輪がリンクしたスライディング機構を用いるようにした場合について述べたが、これに代えて、ガイドとスライダがリンクしたスライディング機構を用いるようにしても良い。また、出し入れが可能で

4

ある限り、必ずしも、スライドレール機構を設けなくても良い。

【0020】また、上述の実施例においては、この発明を固定間仕切壁に適用する場合について述べたが、これに限らず、可動間仕切壁に適用するようにしても良い。

【0021】また、上述の実施例においては、背面パネル13を収納庫5に取り付けるようにした場合について述べたが、背面パネル13を省略することも可能である。背面パネル13を省略するようにすれば、壁の両側から被収納物を収納したり取り出したりすることができる。

【0022】また、上記収納庫は、雑貨などの収納に限定されるものではなく、貴重品類の収納に利用しても良い。

【0023】

【発明の効果】以上説明したように、この発明の間仕切壁は、収納部を壁の端面から出し入れができるようにしたものである。間仕切壁内のデッドスペースをほとんど完全に収納部として利用することができる。したがって、従来の壁内収納庫に較べて格段と大きな壁内収納庫を実現することができる。また、同様の理由により、従来の間仕切壁の外観及び機能をそのまま維持することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施例である間仕切壁の構成を示す斜視図である。

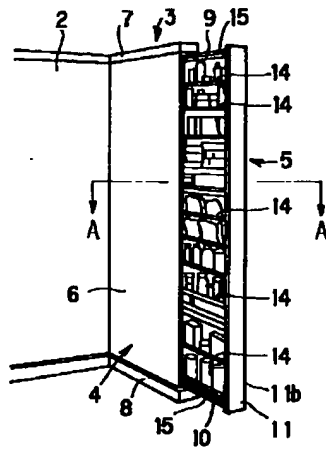
【図2】同間仕切壁の構成を示す断面図である。

【図3】同間仕切壁のスライドレール機構の構造を示す模式図である。

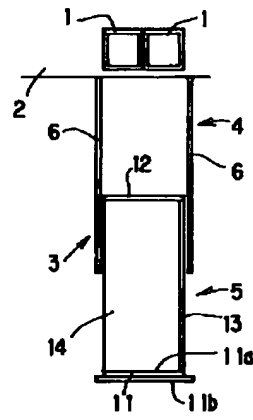
30 【符号の説明】

3 間仕切壁  
4 壁本体  
5 収納庫（収納部）  
15 スライドレール機構（スライディング機構）  
16a 車輪  
16b 車輪  
17a レール  
17b レール

【図1】



【図2】



【図3】

